

渚によつて水深 10~11m とする。

荷役は能力 150t/h (鉍石用) 200t/h (石炭用) の水平引込式起重機 2 台によつて行う。

この工事は昭和 34 年より 35 年度に亘つて実施する。経費は防潮堤撤去、岸壁築造、浚渫費を合計 12.7 億円である。

大阪市南港整備計画による埋立地に水深(-)12m岸壁並に鉍石集積場を設置し上記計画に替える計画も検討せられている。

(8) 尼崎製鉄株式会社

(イ) 現状の問題点

600 t 高炉 1 基の増設火入を、昭和 32 年 5 月末に行

つた。埠頭、荷役施設の更新をこの期に実施し、大浜土岸壁は水深-10m 1 万 t 2 バースのものとなつたが、港口附近の水深に(-)7.3~8.8mの区域があり 1 万 t 級船舶の入港に支障があるので、総経費 2,500 万円 (内、国庫補助 1,000 万円) にて浚渫を 32 年内に実施する。

(ロ) 整備計画

大型船舶受入れに当つての問題は大浜岸壁前面の運河幅員狭隘なる為操船に支障のある点である。この対策として港口近く専用船着岸の為延長400m水深-11m の岸壁を築造し水路浚渫の土砂、鉍滓で埋立てる計画である。

水路は港内外共平均 11m として 2 万 t 船の接岸荷役を可能とする。以上総工費は合計約 29 億円である。

“最近における製鉄技術の展望” の出版について

鉄鋼技術共同研究会製鉄部会では最近 2 カ年間に於ける部会の研究成果を取りまとめ、これに現在のわが国製鉄設備と作業成績一覧を加えた標記の図書を刊行しました。部会委員幹事に配布しました残部が多少ありますので、御希望の方に実費でお願いします。日本鉄鋼協会あて御申出下さい。

(B 5 判, タイプオフセット印刷, 391 ページ)